

様式（細則 5-2）

平成 26 年 10 月 24 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 西田清久



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 26 年 8 月 18 日～8 月 20 日
  
2. 視察又は訪問先
  - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファームシュシュの取組  
内容 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
  - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば  
内容 グリーンツーリズムと地域連携について
  - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」  
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)  
内容 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
  - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館  
内容 文化財修復と和紙の役割について
  
3. 参加者 串崎利行、野藤薫、上野茂、飛野弘二、布施賢司、平石誠  
渋谷幹雄、西田清久
  
4. 調査経費 ￥30,786 円



## 5. 調査研究活動の概要

【農業生産法人 有限会社シュシュ】代表取締役 山口成美氏

### 〈1〉視察に至った経緯

今年の3月に、邑南町で開催された”しまね田舎ツーリズム”の研修で、おおむら夢ファームシュシュの代表山口成美氏の講演を聞き、果樹、農作物などの生産者が山口氏を中心に組織を立ち上げ、農業の6次産業化を目指した取組の成功事例に、浜田市としても類似した環境で非常に参考になると思い視察研修に至った。

### 〈2〉研修内容

- ① 施設見学 農業拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」、農産物直売所「新鮮組」、「ぶどう畑のレストラン」、「手作りパン工房」、アイスクリーム工房「手作りジェラートシュシュ」、収穫体験施設、等

- ② 山口成美氏の講話と意見交換

大村市北部の大村湾を望む傾斜地においては、約40年前から果樹や野菜の栽培が盛んに行われていた。山口代表は、大村市農協の営農指導員として12年間勤められたが、組織内での活動に限界を感じ、退職して専業農家の道を選ばれる。平成8年に、高齢化による耕作放棄地の増加や若者の後継者離れ等による地域崩壊の危機感を抱いた地区の有志40名で、農業農村活性化協議会を設立し、先進地の取組などを研究した後、有志の中の専業農家8名で、ビニールハウスの小さな農産物直売所「新鮮組」を始められた。その1年後には、差別化と付加価値を高めることを目的に、地域の特産果樹を使ったアイスクリーム工房「手作りジェラートシュシュ」をオープン。

初日に1000名以上が押し寄せる人気店となった。そして、平成12年に、農林水産省の農業構造改善事業の補助金を得て、「ぶどう畑のレストラン」、「手作りパン工房」、イチゴ等の収穫体験施設など総額4億円の投資を行い、農業拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」をオープンさせた。

最近では、「農業塾」の開設、農家民宿、「ぶどう畑のレストラン」での結婚式や法事、「洋菓子工房」の新設や直売所の増設などを行い、年間49万人が訪れる観光ファームとなっている。

- これまでに、
  - ・全国地産地消コンクール 農林水産大臣賞受賞
  - ・オーライ！ニッポン大賞 審査委員長賞受賞
  - ・グリーンツーリズム大賞 2009受賞

### 〈3〉所感（まとめ）

山口氏の名刺には、“年中夢求”、“吸収男児”などと書かれ、常に旬を創り出すためのアイデアが満載である。

従来の3Kは、“きつい” “汚い” “危険”

農村の現状3Kは、“高齢化” “後継者不足” “荒廃農地”

シュシュの目指す3Kは、“観光産業” “感動産業” “希望”

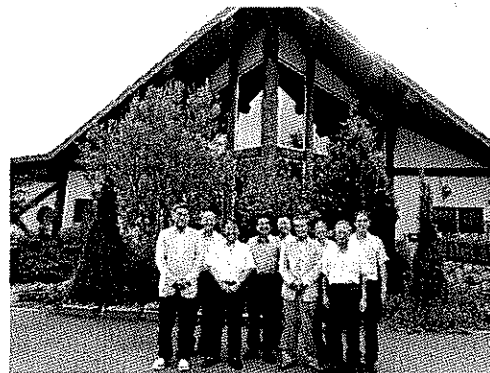
何事もプラス思考で、農村は農損、(NO損)

百姓は百商、百笑、飛躍しよう

いちごやぶどう狩りは観光、いちごやぶどう取りは労働と言われるように、常に、プラス思考とアイデアで規格外の果物や農作物も、2次加工品として付加価値を高め、経済に結び付ける工夫がしっかり伺えた。また商品開発のアイデアやロゴ、イラストなど若い職員の能力が十分発揮できるような職場環境に雰囲気の良いさを感じた。



ぶどう畑のレストラン



おおむら夢ファームシュシュ

【球磨郡山江村】 山江村 内山慶治村長 山江村議会 松本佳久議長

### 〈1〉 視察に至った経緯

山江村は、人口3千7百人余りの山間部の自治体で、特別な地域資源はないけれど、近隣の市町村との連携とおもてなしで、交流人口の増加を目指している。浜田市の中山間部と似ているところもあり、参考になると考えた。

### 〈2〉 研修内容

#### ① グリーンツーリズムと地域連携について「時代（とき）の駅むらやくば」にて

山江村は現在、人吉・球磨グリーンツーリズム協議会に参加しているが、平成4年からボンネットバスを復活させ、ボンネットバスの大会を開催するなどして地域活性化を図っている。また、グリーンツーリズムにより特産品の栗を収穫する農業体験や、栗の加工品作りなど体験交流人口の増加を図っている。

平成15年第1回グリーンツーリズムネットワーク全国大会(熊本県水俣市)参加をきっかけに、地域のモチベーションも上がり、様々な体験メニューが提案されるようになった。また本場イギリスのグリーンツーリズムの研修に村から3名派遣してリーダーの養成や自信にもつながった。

その後、農業体験、収穫、加工の中で地域の食への関心も高まり「食を通じた交流」も始まった。

現在、旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」としてレストランや交流拠点として活用している。

### 〈3〉 所感（まとめ）

九州では、現在も村が多く存在し、“九州のムラ”という雑誌も出ている。ムラが存在しているというより、ムラを存続させているようなところがある。それぞれの気候、風土、環境の中で、歴史とともに育まれた地域の特性を大

事に行っているような気がする。今回訪れた山江村も例外ではない。内山村長、松本議長をはじめ、時代（とき）の駅“むらやくば”で迎えていただいた村の職員やツーリズム実践者、そして大学ゼミのツーリズム研修生のみなさんに本当にあたたかい“おもてなし”を感じた。人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は1市、4町、5村が連携して一つになっている。その繋がりを大事に行っているように思えた。また、山江村のケーブルテレビも研修、交流の様様を取材されていた。



村長、議長、大学生他



時代の駅むらやくば（レストラン）

## 【熊本県人吉市】人吉・球磨グリーンツーリズム協議会（人吉市役所）

農家レストランひまわり亭（本田節氏）と農家民泊

### 〈1〉視察に至った経緯

九州での先駆的な取組と言われる人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は10市町村による協議会である。この取組や、中心的な存在の本田節さんのお話を聞く事と、農家民泊によりグリーンツーリズムの目的、「豊かな自然、歴史、文化などの多元的な資源を活用しながら、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」を視察研修した。

### 〈2〉研修内容

#### ① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」

農家レストラン『ひまわり亭』代表 本田 節 氏

## ② 農家民泊

最初に人吉市役所において人吉・球磨グリーンツーリズム協議会事務局の山本次長より、人吉市の説明と協議会の今日までの経緯と概要説明を受けた。

この協議会の設立経緯は、平成15年より人吉市を含む10市町村が構造改革特区「森林の郷 農林業げんき特区」としての認定を受けた事を契機に、都市農村交流事業への取組がなされた。

平成17年度にはこの取り組みに参加した農家の方を中心に「人吉市グリーンツーリズム推進協議会」が設立、農家民泊が始まった。

当初「田舎に泊まろう農業体験」として小学生の受入れをスタート、川遊びや虫とりなどで都会の子供達が感動する姿を見て、豊かな自然を再確認する事になった。

この農家民泊の為の研修の過程で、それぞれの地域と特色有る料理を持ち寄り、食の交流会（研修）を、ひまわり亭で開催する事になった。

市役所にて説明の後、ひまわり亭に移動し本田節氏より話を聞いた。

「ひまわり亭」は地産地消、食の交流拠点として立ち上げた。食、農を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理をテーマにしている。

地域の高齢者の知恵が家庭料理に詰まっている。これがお金に、おこずかいになる。すると地域の中で自立出来る。ボランティアでは続かない。

怒涛のような、本田節氏の想いを聞く一方で有ったが、地域の魅力やそこに住む人の魅力がストレートに響いた研修で有りました。

その後、農家民泊のお母さん方がお迎えに・・・二つのグループに分れそれぞれの農家に向かい、夜が更けて行きました。

## 〈3〉所感（まとめ）

人吉市役所の山本事務局次長、経済部の大淵次長、農業振興課の鳥越課長補佐と3名に対応していただいたが、中山間地域の活性化や地域資源を活か

した取組による外貨獲得や交流人口の増大にむけての想いの熱さを感じた。  
また、本田節さんの講演と農家レストラン「ひまわり亭」の取組は、地域の財産！「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵、経験、技、感性」がもったいない。地域の歴史や文化を活かさないともったいない。地域のすばらしい自然や風土を活かさないともったいない。地域のすばらしい食材もったいない。と、地域資源を活かした“食”“農”の拠点、農家レストラン「ひまわり亭」を補助金なしで、地域のおばちゃんたちの出資と借金で立ち上げたところにたいへん共感した。

地域おこしは人であることは言うまでもないが、その人にも尊敬し、目標とした人がおられる。人が人を繋ぎ、地域と地域が繋がれていくことの素晴らしさと必要性を感じさせられた視察研修であった。



人吉市役所にて



ひまわり亭にて、本田節氏

【福岡県 太宰府市】九州国立博物館 科学課 渡辺史之氏  
国宝修理装演師連盟 坂田理事長

#### 〈1〉視察に至った経緯

国の重要無形文化財であり、ユネスコの無形文化遺産に登録されている浜田市三隅町の石州半紙は、文化財の修復には欠かせないものであるが、多くには知られていない。九州国立博物館において文化財修復と石州和紙の役割について、普段見ることのできない現場で研修をおこなった。

## 〈2〉 研修内容

### ① 「文化財修復と和紙の役割について」

九州国立博物館科学課の渡辺史之氏により博物館の裏側を案内され、説明を受ける。また石州和紙等が使われる修復現場においては、国宝修理装演師連盟の坂田理事長が、当日九州博物館の滞在されており、文化財修復と和紙の役割について詳しく説明を受けた。修復現場は、文化財を守るための気密性が高く、気温や湿度、風などの管理と、私語もほとんどない真剣な空気が充満していた。

また大学で文化財の修復を専攻している学生も、実習に来ており、修復の各段階の説明を聞く事も出来た。

## 〈3〉 所感（まとめ）

石州和紙の魅力は、地元産の楮と水と職人の技が絶妙に絡み合った強靱さであり、何百年も前に国宝級の文化財に使用された当時の和紙とほとんど変わらない和紙を現在も生産している。文化財修復においては、本美濃紙と併せて欠かせないものと伺っている。今回の視察研修では、屏風、衝立、襖、絵画など修復のトップの方々の説明と現場を見ることが出来、石州和紙の魅力とグローバルな重要性を改めて認識させられた。



坂田理事長と修復の現場



国宝修理装演師連盟の職員